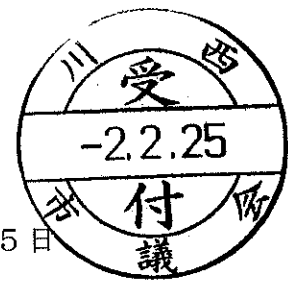


令和 2年 2月 25日



川西市議会議長 様

会派(呼称)名 川西まほろば会

議員名 松 隈 紀 文

管 外 調 査 報 告 書

このたび、管外調査をいたしましたので、その概要を下記のとおりご報告いたします。

記

1 調査者氏名 久保義孝 西山博大 秋田修一 磯部裕子 松隈紀文

2 調査先 宮城県仙台市 アンダンチ
東京都小金井市立 前原小学校

3 調査期間 令和 2年 2月 3日～
令和 2年 2月 4日

4 調査概要

(1) 多世代交流複合施設について

宮城県仙台市で取り組まれている多世代交流複合施設（アンダンチ）について株式会社未来企画の代表取締役である福井大輔氏より説明を受けた後、現地の視察をした。

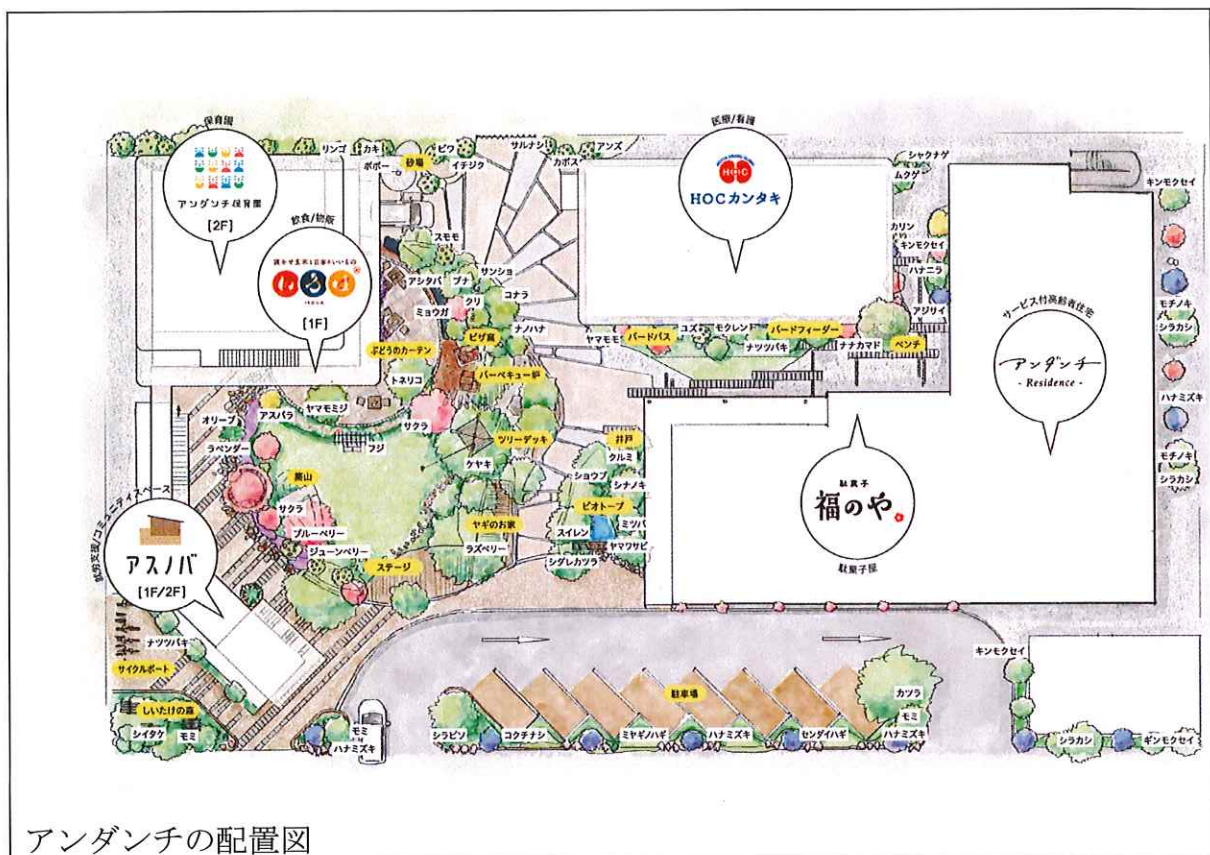
アンダンチでは、子どもも若者も、高齢者も医療や介護が必要な人もそうでない人も、誰もが気軽に集まり、自分の役割を持ちながら、丁寧に暮らす。「つながり、育む これからの暮らし」をテーマに、サービス付き高齢者向け住宅（以下、サ高住）、看護小規模多機能型居宅介護事業所、和食レストラン、企業主導型保育園、障害者就労支援B型事業所など、医食住と学びの多世代交流複合施設が開設されている。

サ高住の入居者の食事は和食レストランが提供し、各施設の職員や連携企業の子どもは保育園を優先的に利用でき、各施設の清掃は障害者就労支援B型事業所が請け負うなど、医食住の複合施設だからこそその連携が取られている。

また、サ高住内にある食堂の空き時間は地域住民に開放し、英会話や母子の子育て、ヨガなどのサークル活動に利用されている。

さらに、フリースペース付きの駄菓子屋を置くことにより、地域の子どものとの交流の場を提供するなど、自然と多世代が集い、交流がはかれるような仕組みとなっている。

アンダンチのコンセプトは、これからのまちづくりに必要であり、川西市においても展開できればと考える。





各施設の中心に存する広場

(2) ICT教育とプログラミング教育について

ICT教育とプログラミング教育の先進校として東京都小金井市立前原小学校での取り組みを視察した。

① 前原小学校におけるICT教育への取り組みについての説明

前原小学校では、ICT活用授業推進校として平成28年度より松田前校長の下、先進的なプログラミング授業に取り組み、その楽しさや面白さ、達成感などを味わえる題材の開発を、試行錯誤しながら取り組まれてきた。

ICTを活用した授業を行うには、先生方の授業力の平準化が必要であり、そのために、松田前校長自ら勉強会を開くなど、先生方のレベル向上に努められたとのこと。

ICT教育を授業に取り入れるのに大事なことは、トラブルやストレスなく機器を利用できることであり、授業中に通信が途切れたり、PCの立ち上がりが遅かったり、固まったり、電源が落ちると、せっかく組み立てた授業が台無しになる。このことから、ICT教育の導入に際しては、ストレスなくインターネットへの接続が可能になる環境や、立ち上がりの早いPCを採用するなど、環境整備が要であるとのこと。

② 5年生の授業参観

この日はドローンにプログラミングをし、各自思い描いた飛行をさせるというもの。

まず初めに、児童はそれぞれ授業のめあてをPCに入力し、先生に送信。先生は全員のめあてを受け取り、スクリーンに表示することで共有、必要に応じてアドバイスをし、授業開始。

PCとは別に、各自「IchigoJam」というプログラミング専用のキットを準備し、それぞれの授業のめあてを達成するために、様々なコマンドを組み合わせではドローンに覚えこませ飛ばしてみる。思い通りには飛ばないときには、何が悪かったのか、また、足りなかったのかプログラムを修正し飛ばす。これを繰り返すことにより、思い描いた飛行へ近づけていた。

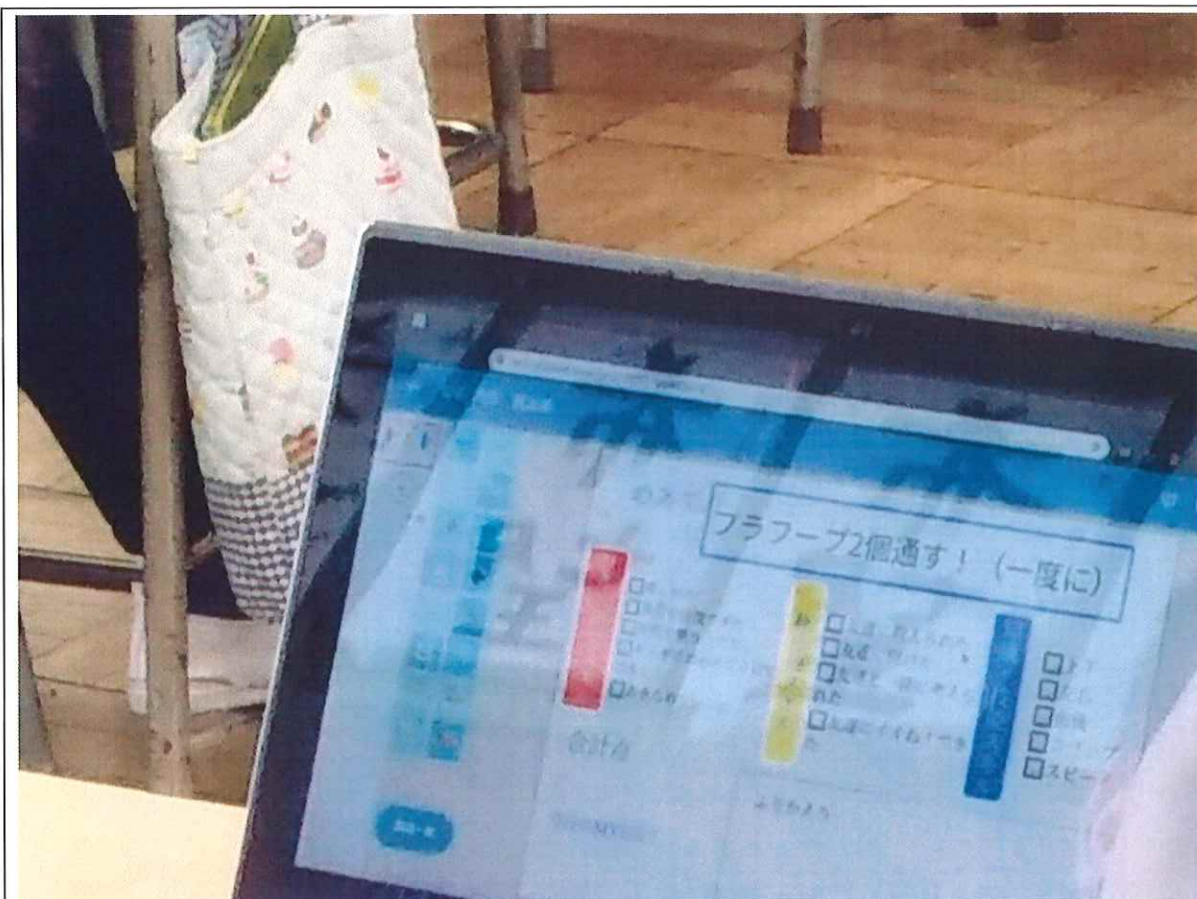
また、児童同士がアイデアを出し合う姿を垣間見ることができ、いきいきと取り組む姿が頼もしかった。授業中、先生は指導するというよりはサポートに徹していた。

授業の終わりに児童はそれぞれ振り返りをPCに入力し、先生に送信。次の授業へ活かす生徒の情報を瞬時に得ることができる。また、授業で取り組んだ内容について、児童同士で「いいね」などのサインを送ることもでき、PCを介してコミュニケーションをとることもできるとのこと。

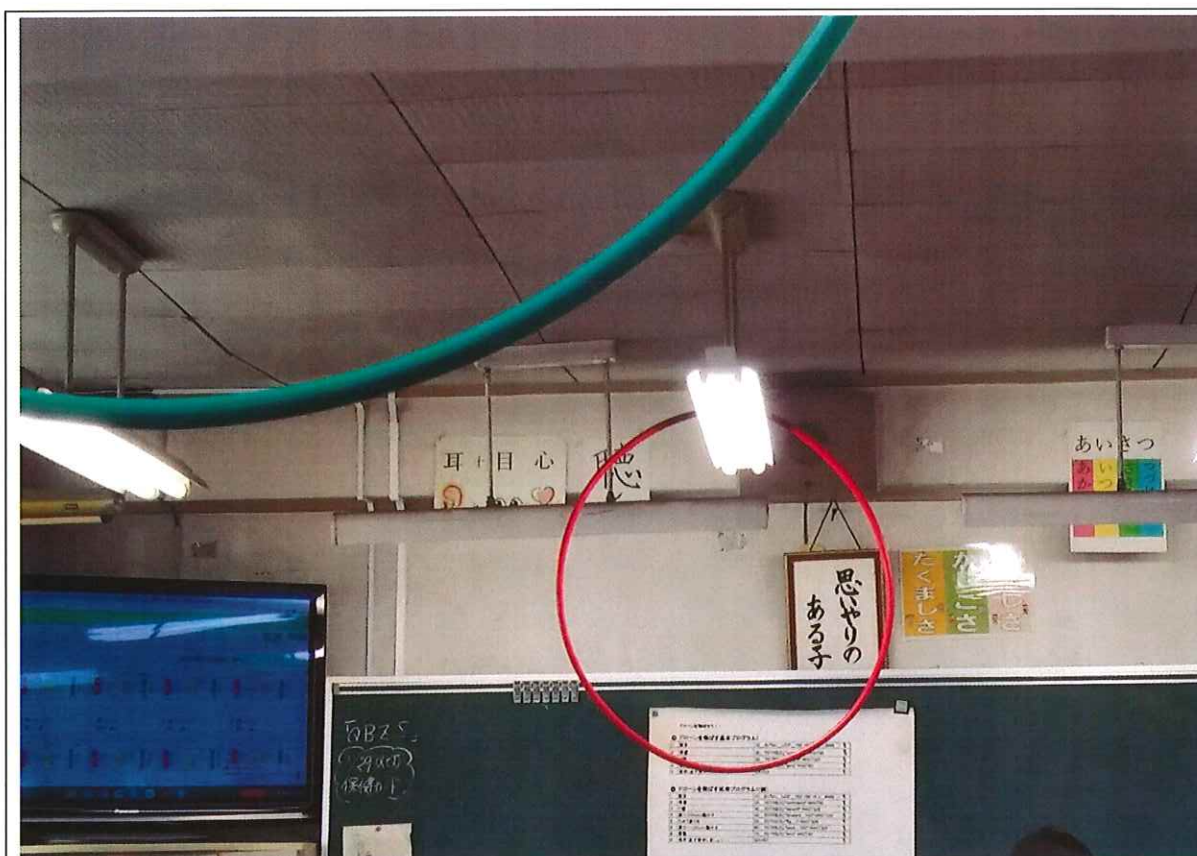
これからの授業はICTの活用によりおおきく変化していく。本市も遅れることなく、しっかりと環境整備を進めるとともに、先生方の授業準備に取り組めるよう、今回の視察で得られた情報を活かしたい。



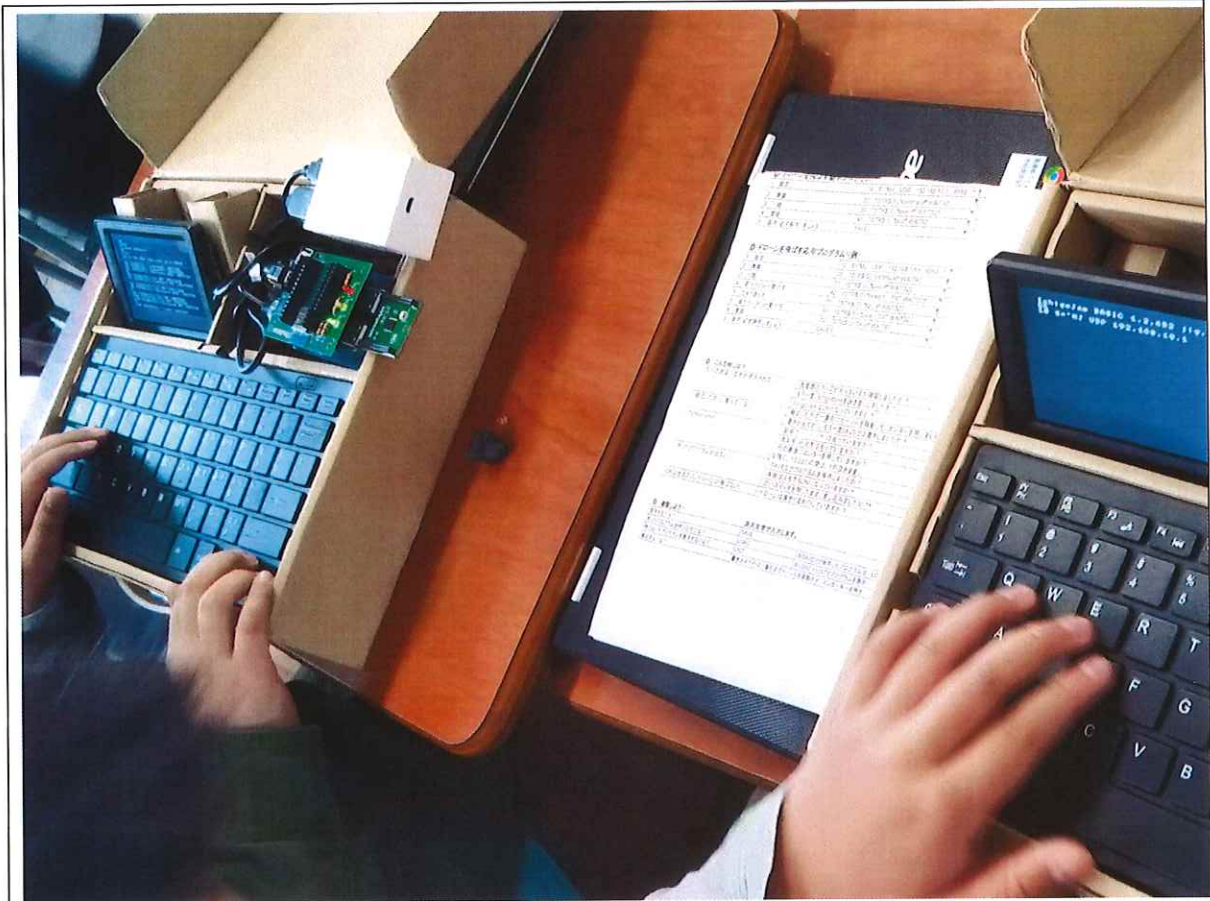
前原小学校校長室にて説明を受ける



授業の様子。各自のノートPCから、本日のめあてを先生に送信。



ドローンを飛ばすための障害物として用意されたフラフープ。



プログラムのコマンドを入力する機器。ノートPCとは別に用意されていた。



トライアル&エラーでイメージした飛行に近づける取り組みをしていた。